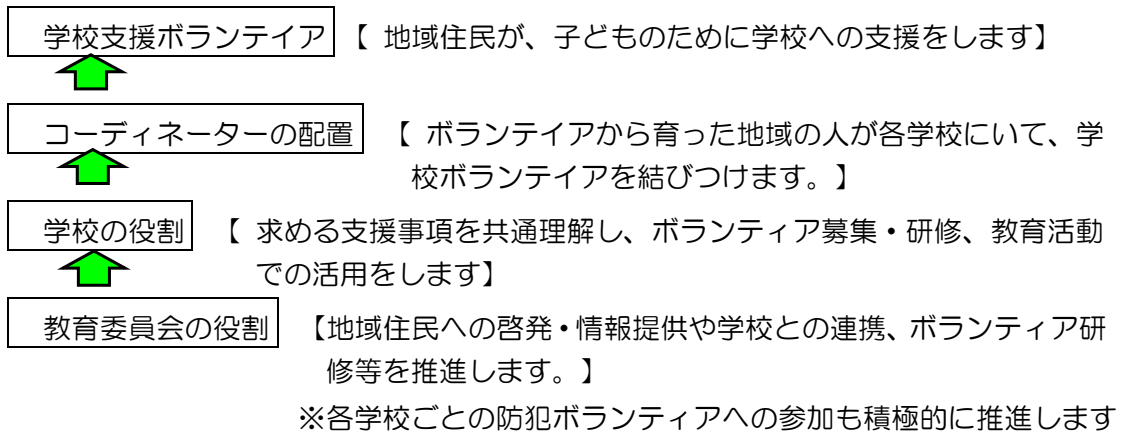


## 東京都小平市 「サポートネットワーク事業」の取り組み

Q 1 小平市の取り組みの特色は何ですか？

### 地域住民、学校、教育行政の関係

A 地域住民、学校、教育行政のそれぞれの役割を明確にして、それぞれが連携・協力していく方策を示していることです。地域住民、学校、教育行政それぞれの関係は次のようになっています。



## 教育委員会の役割

Q 2 教育委員会はどんな役割をしているのですか？

### 基本的な方針を明確化

A 教育委員会では、市内全域に東京都が実施した「サポートネットワーク事業」を拡大を図っていきたいと考えています。本事業を推進するためには、行政、学校、ボランティア及びコーディネーターの連携が必要不可欠です。そこで、学校、ボランティア及びコーディネーターがスムーズに活動できるための環境整備に努めています。

### 具体的な取組みを明確化

A 具体的には、市内各校を訪問し、学校の状況や要望の把握や、多くの教員が、ボランティア及びコーディネーターの活動を理解できるようにするための啓発活動を展開して

いきます。その他、教育委員会として様々な取り組みをします。

### Q3 どんなことをするのですか？

#### 環境の整備

A 教員がボランティアやコーディネーターの重要性を認識するように、啓発活動などを実施し、ボランティアやコーディネーターが活動しやすい環境の整備に務めます。

#### 事業及び参加者募集のPR

A 市民に方針理解してもらい、多くの人にボランティアやコーディネーターとして活動してもらうために、取り組みをPRしていきます。

A また、市報や市のホームページを通じて、不特定多数の人に参加を呼びかけることで、地域に眠っている人材の発掘につなげていきます。

#### ボランティア研修会

A 一定の校区内の学校支援ボランティアの方々を対象にして、ボランティアの内容毎にして研修会を実施します。具体的なプログラムを教職員とボランティアリーダーが企画・運営し、学校支援ボランティアの募集やボランティアの方々のスキルアップのための講座を開催する際に講師謝礼などを負担する取り組みをします。

#### 情報提供

A 行政の強みの一つは情報の多さです。学校やボランティアには入ってこない情報もあるものです。学校やボランティアにとって役立つ情報を必要に応じて提供していきます。

#### 相談窓口

A ボランティア活動中に、自分のプライバシーや秘密を漏らされたり、セクシュアルハラスメントなどをされたりなどのトラブルに巻き込まれた場合は、すみやかに学校や教育委員会職員に報告してください。すぐに対応します。

A その他、この取り組みで不安に思うことや聞きたいことがあれば、気軽に相談してください。すぐに対応します。

## 学 校 の 役 割

### Q4 学校の役割は何ですか？

### 目標と展望の明確化

A それぞれの学校には地域性や校長の考え方の違いなどもあり、学校の目標も当然違います。学校は目標や展望、ボランティアやコーディネーターに望むことなどを明確にし、それらを関係者全員で共有することが必要です。

A 目標を達成するための戦略的なプランを決めるのが「展望」です。誰が、何を、誰のために、いつ、どうやってやるのかを考慮しながら策定する必要があります。

A 関わるボランティアやコーディネーターなどと作り上げるとともに、展望についても目標に合っているのか、学校の要求に合っているのかを常に見直すことも必要です。

### プログラムの企画

A 目標と展望が明確になったら、以下の点を含めた具体的なプログラムを作成します。

#### ● プログラムの目的

どのような成果を求めているのかを具体的にボランティアやコーディネーターに説明し、協力を求めます。

#### ● 活動の内容

その目的を達成するために、具体的な手順や方法、予算などをきちんとボランティアやコーディネーター及び教育委員会職員に説明します。

#### ● 責任の範囲

ボランティアやコーディネーターと教員の役割分担や指揮系統はどのようにするのかなども決める必要があります。また、他の教員が「ボランティアとの協働」についてどのように考えているのかも認識し、場合によっては教員に対する働きかけなども必要になってきます。

### ボランティアのメリット

A ボランティアにもメリットがなければ、なかなか活動を継続することができないものです。メリットは多くの場合、楽しさ、充実感、達成感などですが、場合によってはスキルアップ、ネットワークなどの実質的なものの場合もあります。ボランティアが何らかのメリットを得ることができるようなプログラムづくりや気遣いもボランティアが定着する要因の一つです。

### 場所の確保

A 学校支援ボランティアの活用には、ボランティアの方々のための場所の確保は大きな課題です。専用の部屋でなくても構わないので、いつでも使える部屋を用意すれば、それだけでもかなり活動しやすくなります。

Q5 ボランティアの募集はどうするのですか？

### ボランティアの募集の心得

A 「ボランティア活動をやりたい」という気持ちは様々で、人それぞれです。学校も「どういうボランティアに活動して欲しいか。」という条件も様々です。ボランティアのニーズと学校のニーズを適切に結びつけるということなのです。

A 「なんとなくボランティアしてみたい」という人を「なんとなくボランティアに登録したり、お願いしてしまう」ことは、ボランティアにとっても、学校にとっても不幸な結果になってしまいます。

A 「よくわからないけど、とにかくボランティア活動したい」という応募者をうまくボランティア活動につなげていくためにも、ボランティア活動を始めてもらう前に、学校の要望や活動についての注意点などを具体的に話しておくことも大切です。

### ボランティアの募集の留意

募集に当たっては下記のこと留意してください。

- どのような活動をしてもらうのか。
- どのような能力、スキルを持った人が必要なのか。
- どのような時間帯に活動できる人が必要なのか。
- どのようなことがボランティアに提供できるのか。

### 間違ってもしないでください

- コスト削減のために安価な労働力がほしい。
- プログラムも活動もないけれど、とりあえず数だけそろえる。

## Q6 ボランティア募集で重要なことは何ですか？

### インタビュー

A 「インタビュー」とは、ボランティアをやってみたいと考えて学校にアプローチしてくれた人が、どのような思いをもっているのかや、どのような希望をもっているのかを聞くというプロセスです。一定のスキルを必要とする場合や、継続的に活動してもらいたい場合は、書類上のやりとりだけでなくインタビューも行った方がスムーズに進みます。

### マッチング

A 「マッチング」とは、ボランティアをやってみたいと考えている人のスキル、ノウハウ、そして思いをボランティア活動につなげていくプロセスを意味します。学校の中でボランティア活動をする場合、マッチングは必ず行われていますので大切にしてください。

### オリエンテーション

A 「オリエンテーション」とは、ボランティアに対して、ボランティアと学校との関係を明確にし、活動の方向性を認識してもらうための情報を提供する場です。学校とボランティアとのトラブルを防ぐためにも必ず実施してください。

具体的には下記のようなことを説明するといいでしょう。

- 学校について
- ボランティア活動のルールやマナー ・ボランティアに求められるもの  
・ボランティアに提供されるもの など
- 教員・コーディネーターの紹介 ・児童・生徒への紹介  
・すでに活動しているボランティアの紹介 など
- その他活動のために必要なこと  
・リスクマネジメントについて（災害時の対応・不審者の対応など） 等

## 学校支援ボランティアの役割

### Q7 学校支援ボランティアの活動とは何ですか？

#### ともに学び合う（生涯学習活動）

A 学校を拠点に学校支援ボランティア養成講座等を学校やコーディネーターと協力して企画し、学ぶ姿を伝えたり、子どもとともに学んだりしめることです。

#### 学びをわかちあう（教育サポート活動）

A 知識、知恵、技術、経験を授業やクラブ活動などの教育活動のために提供することです。

#### ゆたかな学校を作る（学校環境づくり活動）

A 学校の施設や校庭等の環境整備に協力したり、行事に参画したりすることです。

#### コミュニティでの学びをひらく（地域教育サポート活動）

A 子どもたちが学校や地域社会で体験的に学ぶ機会や教材、知識、技術などを提供することです。

### Q8 ボランティアが学校に貢献できることはなにですか？

#### 精神的成長への貢献

A 子どもたちが、自分の限らない可能性や人生の意味や目的などを理解するための機会を提供できます。

#### 道徳心や実践力への貢献

A 子どもたちが、正義感や倫理観、権利と義務などを正しく認識し、実践できるための機会を提供できます。

#### 社会的成長への貢献

A 子どもたちが、社会の一員になるために必要な知識やコミュニケーション能力を体験的に習得し、自立した市民になるための機会を提供できます。

#### 文化的成長への貢献

A 子どもたちが、豊かな創造力を身につけたり、文化や風習の違いを尊重する気持ちを育む機会を提供できます。

#### 学問的成長への貢献

A 子どもたちが、自ら学ぶことの目的や意義を発見し、意欲的に学問を探究していく意識を育むとともに、生涯にわたって学び成長しつづけることの意義を発見する機会を提供できます。

### Q9 学校支援ボランティアの有効性は何ですか？

#### 学校への有効性

A 学校が地域住民に教育への参加の機会を開くことにより、組織を柔軟にし、学校に対する地域住民の認知度が高まります。

#### 教育カリキュラムへの有効性

A 新たな教育課題の克服のために、地域住民などが持つ多彩で多様な教育力を活かすことができます。

#### 教員への有効性

A ボランティアの参加により、子どもたちが学校生活を豊かにし、学習意欲を高め、教員が行う教育活動への興味や関心を深めることができます。

#### 児童・生徒への有効性

A 児童生徒が地域住民との多様なふれあいを通して、生きた学問を学ぶことができる

とともに、多様な体験学習などを通して生きる力を育むことができます。

#### 地域社会への有効性

A 保護者や地域住民の教育への参加意識を高めたり、人々の生きがいを創出したり、地域活動の活性化などに寄与することができます。

### Q10 学校支援ボランティアの基本的な考え方は何ですか？

#### 活動を始めるにあたって

A 学校でボランティア登録をしていただき（必ず活動要請があるとは限りません。）次のようなことをお願いします。

- 学校の要請に応じて活動していただきます。
- 登録の変更や取り消しも可能です。
- 登録期間は学校にお尋ねください。
- 学校には、学校と地域を結ぶコーディネーターがおり説明を聞くことができます。

### Q11 学校支援ボランティアの活動内容はどんなことですか？

#### 学習支援ボランティア

- 教科学習の補助
- 総合的学習の時間の補助
- 校外学習の引率
- 水泳指導補助
- パソコン授業補助
- クラブ活動補助など

#### 環境支援ボランティア

- 花壇、芝生の手入れ
- ビオトープの整備
- 子どもの安全確保（通学時の見守り、朝の声かけ）

#### 図書ボランティア

- 本の整理、修理
- 本の貸出・返却受付
- 読み聞かせ 等

### Q11 ボランティアをする際の心構えは何ですか？

#### 子どものために！

- 教員との約束やボランティア同士の約束を確認をしましょう。
- 約束の時間の5分前には学校へ行くようにしましょう。
- 人との出会いを大切にしましょう。
- 共に学びあう心を持ちましょう。

- できるところから始めましょう。
- 子どもたちのプライバシーや秘密を厳守しましょう。
- 宗教や政治のことを持ち込まないようにしましょう。
- 意見の食い違いなどがある場合は、その内容を確認し、誤解を解く努力をしましょう。
- 服装は自由ですが、清潔で常識的な範囲を守りましょう。
- 不明な点があったら、遠慮なく先生やコーディネーターに相談してください。

### Q13 危機管理（リスクマネジメント）について

#### 保険制度への加入

A 「リスク」というと、活動中のけがや事故をイメージし、その対策として「保険に入っておく」というのが一般的です。小平市の取り組みでは、市民総合災害補償保険に加入しており、ボランティア自身がけがをした場合や、逆にボランティア自身が、けがをさせてしまった場合にも対応しています。

#### 連絡体制

A 活動中の安全確認や災害が起きた際の避難場所を確認しておきましょう。事故や問題などが発生したときや不審者等と遭遇した場合の連絡先や連絡方法なども確認しておきましょう。

## コーディネーターの役割

### Q14 コーディネーターとは何ですか？

#### 学校と地域をつなぐパイプ役

A コーディネーターは、この事業を実施していくために、ボランティアとともに必要不可欠な存在です。学校と地域をつなぐパイプ役として、学校の求めに応じて、次のような活動をします。

- ①学校と学校支援ボランティアとの連絡調整をしています。
- ②総合的な学習の時間などにおいて、担当の教員の求めに応じ必要な人材をコーディネートします。
- ③学校と協力して、学校支援ボランティア養成講座などの企画や運営を行い、必要な人材の確保や、ボランティアのスキルアップを図っています。
- ④ 必要に応じて、学校や学校支援ボランティアの相談にのります。
- ⑤ その他、学校の求めに応じて活動します。



## Q15 コーディネーターの役割は何ですか？

### ボランティアマネジメント

A 学校支援ボランティアの「思い」や「願い」を自己満足に終わらせることなく、空回りしないで確実に成果をあげていくために、まず環境を整えていくことが重要な役割としてあげられます。これを「ボランティアマネジメント」といいます。学校のことと同時に、ボランティアが何を求めて活動しているかを考えながら、マネジメントできるといいでしょう。

### コーディネート

A 学校の求めに応じて、総合的な学習の時間などにおいて必要な人材や教材などをコーディネートします。また、学校と協力して、地域や保護者の視点を入れた催しものの企画や刊行物の編集を行うこともあります。

### ボランティア研修の内容の検討、実施

A 学校支援につながる内容で、ボランティアから、「こんなことを学んでみたい」、学校から「こんなことを支援してほしい」などの要望や、自分自身のために、必要な研修はどんなものかを考え、学校や教育委員会職員と相談しながら講座の企画・開催をします。

### カウンセリング（傾聴）

A ボランティアと接する機会は、教員よりもコーディネーターの方が多いと思います。必要に応じて、ボランティアの想いや抱えている疑問や悩みの相談相手になります。自分で解消できない問題は、学校や教育委員会職員に相談して解決します。

※参考：「地域協育振興のためのQ&A」（平成18年3月 大分県地域協育進行協議会発行）